

2010年10月20日

第118回 社会情報学部研究会 開催のお知らせ

社会情報学部研究委員会

下記の要領で、第118回社会情報学部研究会を開催します。
どなたでもご参加できます。他学部の先生も是非ご参加下さい。

記

日時：2010年11月4日（木）午後1時30分～午後4時
場所：C館4階会議室

学生の学習動向の分析とそれに適合した教育の試み ープログラミング教育を例としてー

社会情報学部 森田 彦

大学全入時代を迎え、多様な学生に適合した教育をいかに施すことができるかが大学の喫緊の課題となっている。これに対処するには、学生の実態を的確に把握することが不可欠である。そこで、筆者が担当している「プログラミング」科目の過去数年にわたる履修データ（テスト成績や課題提出状況等々）を基に、学習に対する学生動向の分析を試みた。その結果、学習習慣あるいは勉強の仕方が身につけていないことが主要な問題として浮かび上がってきた。このことは、基本的な学習の仕方が身につけば、達成度も向上することを示唆している。この観点から、学生に学習の目的とタイミングを具体的に指示することを意図した指導を、所属ゼミ生が開発したe-learningシステムを活用して行った。

本講演では、学生の学習動向の分析結果と、それに基づく「プログラミング」科目で行った教育上の取り組みおよびその教育効果について報告する予定である。

プログラミング学習用 e-learning システムの開発とその運用

社会情報学部研究生 原 正樹

私は、森田ゼミの卒業研究で、プログラミング学習の理解度を確認するテストをWeb上で行うe-learningシステムとして開発した。これは、自動採点や学習履歴の保持などを基本機能として持つものであるが、これのみであれば電算センターが用意しているTIESでも実現可能とのことである。しかし、ここでは、同じテーマの問題を違った角度から問う類似問題をランダムに出題させる機能を実装したかったので、自作のプログラミングを試みた次第である。毎回アクセスする度に、違った（しかし類似した）問題が出題されることで、繰り返す毎に理解度が向上する、という学習環境の実現がそのねらいである。

本講演では、本システムで実現されている機能をその使い方と共に説明し、併せて、これまでの運用結果についてご報告する予定である。さらに研究生期間中に実現したい改善点についても言及したいと考えている。